

【レポート】

少子高齢化、核家族化による独居老人の孤独死というのは、日本が直面する大きな問題である。都市部のみならず地方においても、独居で住んでおられる方が増えつつあります。

そこで、独居老人宅を訪問し、お年寄りの方との触れ合いを目的とした地域ボランティアの取り組みについて紹介します。

地域ボランティアの取り組みについて さわやか 小さな親切隊

島根県本部／隠岐の島町職員組合

1. はじめに

隠岐諸島は島根半島の北方、日本海に浮かぶ4つの島と他の小島からなる諸島です。

隠岐の島町は4つの島の中でも最も大きな島である島後（どうご）に位置し、総面積は242平方キロメートル、人口約13,000人の町です。

現在の隠岐の島町は、かつて隠岐郡西郷町・布施村・五箇村・都万村の4ヶ町村で構成されていましたが、2004年に町村合併し、今年合併20周年を迎えています。

隠岐島は、自然、文化・歴史が多く残されており、2013年9月9日には『世界ジオパーク』に認定されました。また、日韓をめぐる領有問題となっている竹島が属する町でも知られています。

人口は合併後に17,000人余りでしたが、減少傾向にあり、現在では13,088人となっています（2024年4月1日現在）。

隠岐の島町においても、例外なく高齢化が進んでおり、高齢化率も高い水準で移行しています。また、年少人口も減少し、学校のあり方に関する検討委員会で適正な規模配置についても今後、検討が進められていく予定です。結果、独居老人宅の増加・地域のつながりが希薄となってきているとも言えます。

こうした現状を踏まえ、隠岐の島町職員組合では合併前から地域ボランティア活動として独り暮らしのお年寄りが気持ちよく新年を迎えられるよう年末に訪問し、窓ふきを行い、島の郷土料理「隠岐そば」をお配りしています。

今回、隠岐の島町職員組合で行ったこれまでの活動について報告いたします。

2. 年末ボランティア～窓ふき隊～

独り暮らしのお年寄りが気持ちよく新年を迎えたい。一年の終わりに大掃除をしたいけど体力等の理由からどうしてもできない……

そんなお年寄りの悩みを解決するため、このボランティア活動を行っています。

また、私たちがボランティアに参加することにより、地域の方々とのコミュニケーションをとることができ、日頃の業務では見えない地域の困りごとなどを発見する機会にもなっています。

この活動は、J P 労組や電力総連、農団労等、他産別や退職者会からもボランティアを募り、さらには、地元隠岐高校野球部員にも協力をお願いしてきました。近年野球部の参加はありませんが、これまで高校時代に参加してきた方の中には社会人になってからも参加する方もおられます。



3. 年末ボランティア活動の内容

ボランティア活動は、“さわやか小さな親切隊”として独り暮らしのお年寄りの家に訪問し、窓ガラスをきれいにし、隠岐そばをお配りする事です。

2023年末の活動は参加人数82人で、27戸のお宅を訪問しました。

参加者は、前述のとおり多くの産別から参加があり、島内の様々な事業所など、普段顔を揃える事のない面々が集まります。

訪問先は、居宅介護支援事業所の協力を得て、介護認定を受けている独り暮らしのお年寄りの希望を伺い、決定していきます。

訪問先が決定したら、窓ふき隊の班編成を行います。

当日、参加者全員が集まり、出陣式を行います。その後、班の準備が整ったら、各々家に向かいます。

訪問するお年寄りには耳の遠い方がおられるので、『こんにちは～、さわやか小さな親切隊です。窓ふきに来ました。』と、住んでおられる方を探すことから始まります。時間がかかる場合もありますが、必ずお話をしてから窓ふきを始めます。

訪問する家は、古い家が多くガラスもレトロ風で触るだけで割れそうなガラスもあり気を使います。また、年末ということもあり、水も冷たく時には雪が降ることもあるので、正直言って寒いです。

しかし、お爺さん・お婆さんたちの姿を見ると、そうも言っていられません。

家の外側、内側とまんべんなく窓ふきをしていきます。

数人で作業するため、一軒あたり30分ほどの作業です。

窓拭きも終わり隠岐そばを渡すと、とても喜んでくれます。隠岐そばならではの、特製のさば出汁付きです。

「良いお年を迎えて下さいね」とお渡しします。

すると「これを食べなさい」と、お菓子や飲み物を頂いたり、お互いに温かい気持ちになることができます。



4. 年末ボランティア活動を振り返って

このボランティア活動は“さわやか小さな親切隊”と題し、合併以前から活動を続け、隠岐の島町職員組合としては2024年で20年目になる自治研活動です。

多くの皆様のご協力により、活力ある地域づくりに取り組んでいます。

参加者が集まらなると、このボランティアは成り立ちません。

さわやか小さな親切隊は、ボランティアである上に身体的に辛い内容ですが、毎年これだけご参加いただけるのは、参加者の皆様の心の中に、地域のため、地域に住む人のため“小さな親切”がしたいという気持ちが奥底にあるからだと思います。

この活動により、一人暮らしのお年寄りのお手伝いができるだけでなく、我々も気持ちの良い活動ができる。活力ある地域づくりができる。

こんな素晴らしい活動を続けていけるよう、また、先輩方が継続して取り組んできたこの活動を今後も継続していきたいと思います。